

就実大学学院・就実大学の中期目標・中期計画に基づく各部局年度計画及び実行計画と達成状況

部局名 : 国際交流センター

計画:2019年5月10日／中間報告:2019年9月30日／最終報告:2020年3月31日

中 期 目 標	中 期 計 画	部局及び学科における2019年度計画と実行内容		計画達成状況
		2019年度計画	2019年度実行内容	
	中期目標に対する中期計画の具体的項目	各部局で、中期目標・中期計画に基づいて計画する（具体的に期限やレベルなど数値目標を挙げて定量的に記載する）	(2019年度計画の具体的実行内容を具体的に期限やレベルなど数値目標を挙げて定量的に記載する)	年度の中間及び年度末に計画の達成状況を評価する。該当する項目については、セルを分割して、上段に中間報告、下段に最終報告を記載する。
【社会連携・社会貢献】 教育の理念・目的を実現するためには、社会連携・社会貢献に関する方針を明確にし、その方針に沿って社会との連携に配慮し、教育研究成果を広く社会に還元する。	グローバル化促進として、留学生の積極的な受け入れ、さらに外国人研究者活躍の場を広げ、本学の構成員の国際的活動能力の向上を図る。	インバウンドとアウトバウンドのバランスがとれるよう、学内外への働きかけを強化し、国際交流も活発に行い、学生の海外への関心を高める。受入留学生数は全学生の1%を目指している。	英語圏以外の様々な言語文化圏の教員も増えるため、学内のグローバル化に積極的に関わっていただき、教職員の国際交流活動の幅を広げ、学生が海外に関心を持つよう働きかける。また、学内においては、受入態勢の一つであるN2必須のハードルについて検討を行う。	海外協定校の学生と本学学生の交流の場である催し「2019就実サマープログラム」は、多くの教員に積極的に関わっていただくことができた。また、学生も多くの参加があり、前期の国際交流活動は活発に行えた。学生募集活動にも積極的に参加している。 COVID-19により留学中止になった学生、帰国を余儀なくされた学生に対し、迅速に対応できた。また、交換留学生の受け入れに関しても、前期の受入から後期への延期申し込みをし、理解を得た。
【2019年度大学院・大学の主要事業計画と改革の重点事項】				
〔特色ある取り組み〕 社会を意識して学び、学生自らが成長を実感できる教育改革、充実した学生生活支援、新たな価値を創出する地域連携活動などを通じて、本学の魅力や教育・研究の質を高め、個性を磨いて差別化を図るために、特色ある大学改革を推進する。「未来社会を力強く生き抜く人材を育成し、地域と共に輝く大学」を目指し、全教職員がベクトルを合わせて下記の重点課題に取り組み、目標達成に向けて努力する。 (1) 教学ガバナンス・マネジメントの強化による内部質保証：組	①教員の教育研究力の推進:学会、研究論文、HP等による研究成果の情報公開や共同研究を推進する。②科研費等の研究資金獲得の促進:研究費採択率10%増、学内助成制度や外部補助金への申請を促進する。③若手研究者の支援:学内共同プロジェクト、競争的資金制度や褒賞制度を充実し、支援体制を強化する。④地域連携協定大学の精査を行い、	⑥「2019就実サマープログラム」及び「留学生との交流会」では多くのバディー学生が活躍し、また留学生も積極的に自国のプレゼンを行うなど、活発な交流ができた。協定では、ハワイ大学マノア校と改定協定が締結された。		

織的な大学改革への取り組み

(2) 3ポリシーを具現化した教

育改革による学びの保証：カリ
キュラムマネジメント体制の構築

(3) 満足度向上に繋がる学生生
活・修学・キャリア支援体制の強
化：学生調査に基づく改善整備

(4) 新入試制度の構築と効果的
な入試広報活動：優秀な学生の確
保と学生定員の厳格化

(5) 地域活性化に繋がる教育・
研究ブランド力の強化：地域貢献
力とグローバル化の推進

世界や自治体との連携事業を通じた大学
の人的・知的資源の積極的な活用を推
進する。

⑤地域貢献活動促進：地域コ
ミュニティーや企業インターンシップを通
じた交流活動を促進・展開する。

⑥グローバル化の促進：海外連携協定大学
を拡充、交換留学生を増やし、教員海
外研修を促進する。

より効果的なグローバル化を図る。

た、現在在籍している留学生、交換
留学生が充実した学生生活を送れる
よう支援し、次の留学生に繋げる。
海外に留学する本学学生の多様な
ニーズに応えるため、既存の協定大
学との協定の見直し、新規連携協定
大学の開拓を目指す。

⑥タイ・カセサート大学、台湾国
立清華大学との協定を更新し従前
の協力体制を維持するとともに、
アイルランドで初めてダブリンシ
ティ大学との包括協定を締結し、
就実のグローバル化の推進、学生
交流、学術交流のステップを上
げることができた。

◆中期目標・中期計画に基づく各部局年度計画及び実行計画と達成状況の運営について◆

(1)2019年度計画は、就実大学大学院・就実大学中期目標・計画の具体的な取組・実行内容に基づいて計画する。中期目標・計画に関連して、新たな取組がある場合は項目を増やして記載する。

(2)2019年度実行内容は、2019年計画の具体的取組・実行内容を具体的にかつ定量的(数値的)に記載する。

(3)計画達成状況は、年度途中(9月末)、年度末(3月末)に計画の達成状況を部局長及び学長が評価し、次年度計画の参考とする。